

観光やITと連携

顧客と相互関係を

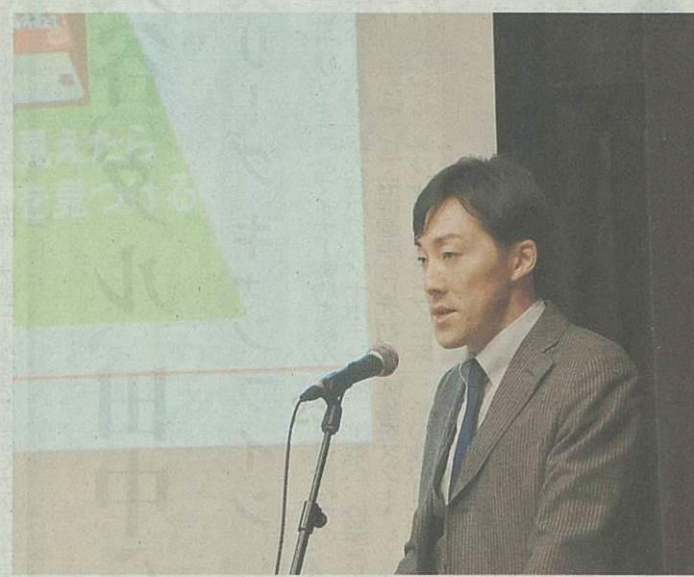
農業 新たな可能性

市などがビジネスセミナー

八戸

農業ビジネスの可能性などを考えるセミナーがこのほど、2日間にわたり、八戸市ポータルミュージアム

はっちで開かれた。初日は農家のほか農業による起業、他産業からの参入を検討している市民ら約70人が参加。農業と観光を組み合わせた事例や経営戦略など



農業ビジネスの可能性について講演する井上准教授

を学んだ。

市と八戸地域担い手育成総合支援協議会の主催。初日は八戸学院地域連携研究センターの井上丹客員准教授とリクルートライフスタイルじゃらんリサーチセンターエリアプロデューサーの竹直也さんが講演した。

井上准教授は、観光、情報技術(IT)、国際などと農業との組み合わせで新ビジネスの可能性が生まれると指摘。竹さんは観光×農業の成功事例として、十和田地域で行われた大根収穫とそば打ち体験ツアーなどを紹介。「旅先での深い体験を求める観光客が増えており、農家と意思を通わせられる着地型プログラムが求められる」とした。これを受け、井上准教授は「人口減時代を迎え、農家は顧客が一生付き合いたいと思える関係を築く必要がある」と解説。後継者確保の意味からも、単なる広

告ではなく、ストーリー性を持たせたPRで相互関係を構築するべきだと訴えた。その上で「自分の仕事に誇りを持ち、生き生きと働く姿を伝えることが地域の元気に直結する」と強調した。

(若松清巳)